

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 30 年 11 月 1 日	
所属部局・職	野生動物研究センター・修士課程学生
氏名	前田 玉青

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
熊本県、熊本サンクチュアリ
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
動物福祉実習
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 30 年 10 月 23 日～平成 30 年 10 月 26 日(4 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士／〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
京都大学野生動物研究センター、平田聡教授・森村成樹准教授
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果・長さ自由)
写真(必ず 1 枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
実習の内容は、熊本サンクチュアリのチンパンジー・ボノボを対象に、エンリッチメントを考案・製作し、実際にケージ内に設置してその効果を観察するというものでした。今回は、健康診断と日程が重なったため、採食エンリッチメントは禁止、という条件でした。 私はボノボに会うのは初めてでしたが、写真で見た印象よりも、チンパンジーとは体つきや顔つきが随分違って見え、また、おしゃべりで親しみやすい印象を受けました。 私の班は匂いをテーマに「Ape Aromatherapy」というエンリッチメントを考案しました(図 1)。プラスチックボトルの中に、以下 5 種類の匂いのもとを細かく刻んで入れ、ケージの外に括りました。 ・グレープフルーツの皮(食べ物・日頃よく匂いを嗅ぐもの) ・チョコレート(食べ物・普段接触しない) ・ローリエとラベンダー(食べ物ではない・普段接触しない) ・シソの葉(食べ物ではない・普段接触しない) ・紙(臭いなし、コントロール) 合計操作時間は 1 時間中チンパンジー 1.3 分、ボノボ 10.2 分で、他のエンリッチメントに比べて非常に低い結果になってしまいました。また、すべての班で、エンリッチメントは壊されて中身の食べ物が食べられてしまい、非採食エンリッチメントにすることはできませんでした。 操作時間の長かった班のものは、頑丈に作られており(それでも壊されていましたが)、直接操作が可能でした。操作時間を増やすには、壊れにくい素材で作成し、檻の中に設置できるようにする、ということが非常に重要であると思いました。 また、好きな匂いを調べるという、調査的なことがしたくなってしまうのも良くなかったとも思います。自分たちの興味は差し置いて、彼らを楽しませることに集中するべきでした。 その中では、グレープフルーツ、ついでチョコレートの操作時間が最も長く、他のハーブとシソはコントロールとほぼ同じ操作時間でした。ヒトはハーブの匂いを楽しまますが、チンパンジー・ボノボでは今回使用したハーブ類の匂いを楽しむというような行動は見られませんでした。やはり食べ物に対する興味が非常に強く、結局のところ採食エンリッチメントが一番操作時間は長くなりそうだなとは思いました。一方、ボノボたちが人と追いかけてくるのを見ていると、非採食エンリッチメントもなにかしら工夫すれば可能だったのかもしれない。

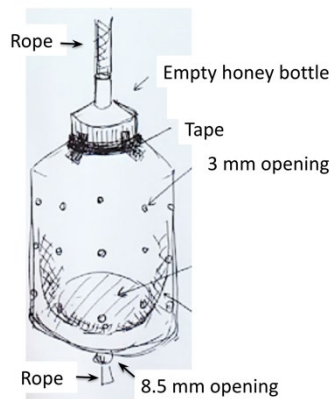


図 1 Ape Aromatherapy



図 2 ボノボの檻に設置した様子

6. その他(特記事項など)

謝辞: 平田先生、森村さん、熊本サンクチュアリのみなさまには大変お世話になりました。ありがとうございました。また、このような機会を与えてくださった PWS に感謝いたします。